

第三次事業化計画期間中における都市計画道路の整備状況

都市計画道路の整備推移

都内には、現在、延長 3,208km の都市計画道路が計画されていますが、平成 25 年度末時点でその完成率は約 63%であり、平成 16 年度からの概ね 10 年間で 8%増加しました。

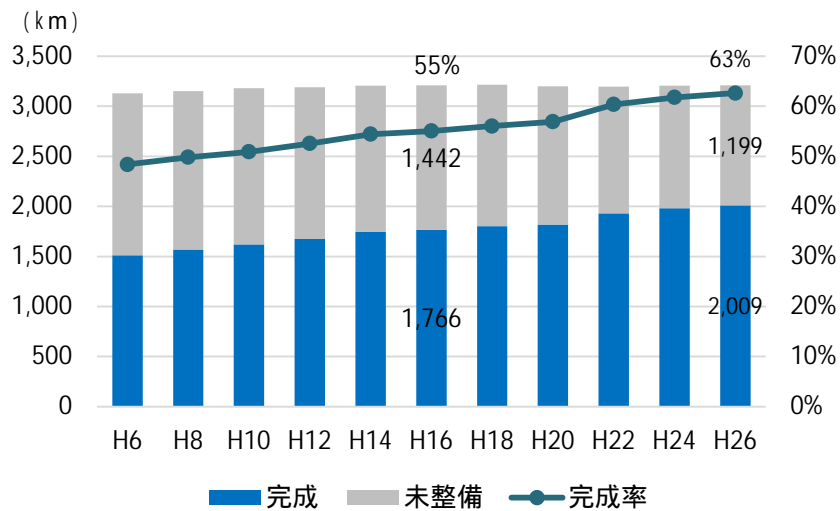


図 都市計画道路の整備推移

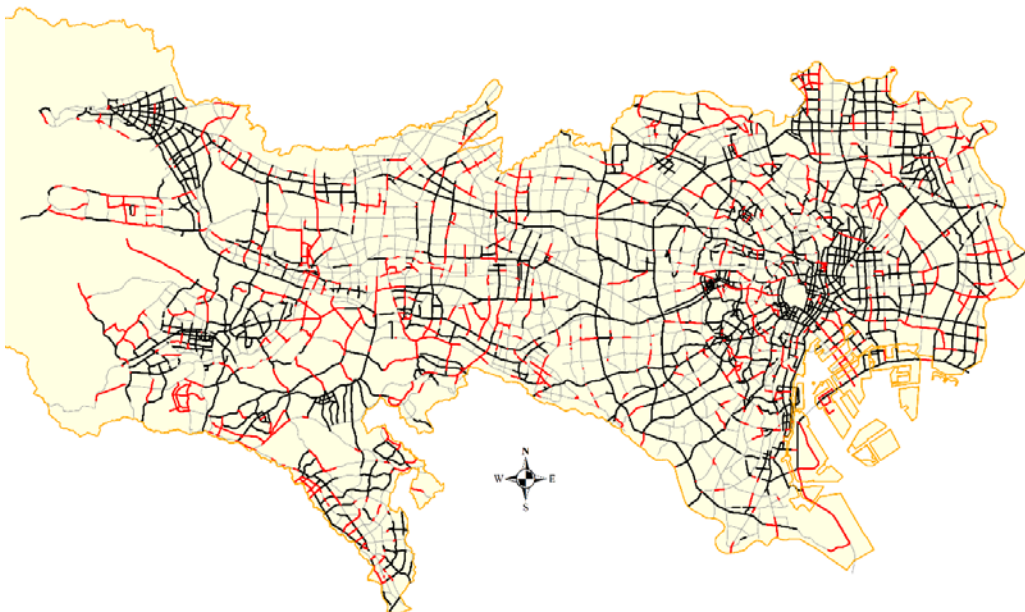


図 第三次事業化計画期間中に完成した都市計画道路
 (区部は平成 15 年度末時点、多摩地域は平成 17 年度末時点の完成箇所を黒色で、その後、平成 25 年度末までに事業完了 (完成) した箇所を、赤色で着色しています)

都市計画道路の主な整備事例

環状第8号線（杉並区井草三丁目～板橋区相生町：平成18年5月供用）

環状第8号線のうち、最後の未開通区間であった練馬と板橋の区間約4.4kmが開通したことで、全線（44.3km）が開通になるとともに、交通利便性の向上や周辺道路の混雑緩和などの効果が得られています。

図-1 環状第8号線全体計画図



図-2 練馬トンネル分岐



図-3 半地下式トンネル



図-4 板橋相生陸橋：架設状況



図-6 整備効果：周辺道路の交通量

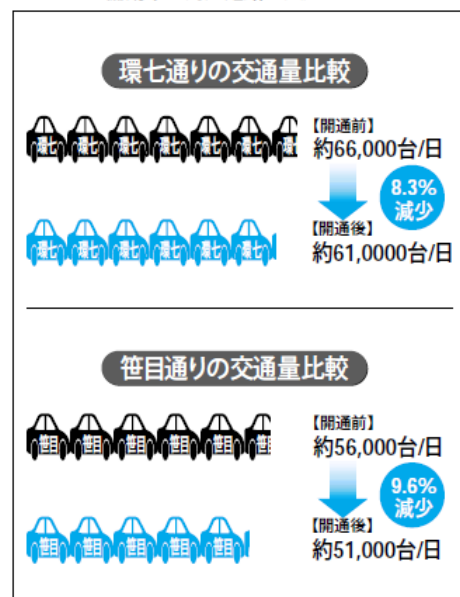
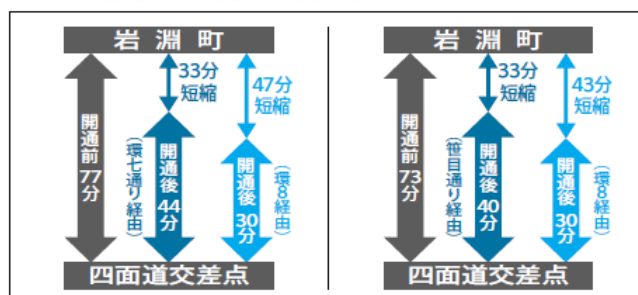


図-5 整備効果：四面道～岩淵所要時間



「環状道路の整備効果～環状第8号線の全線開通（都市と交通 通巻68号 P8、9）」より

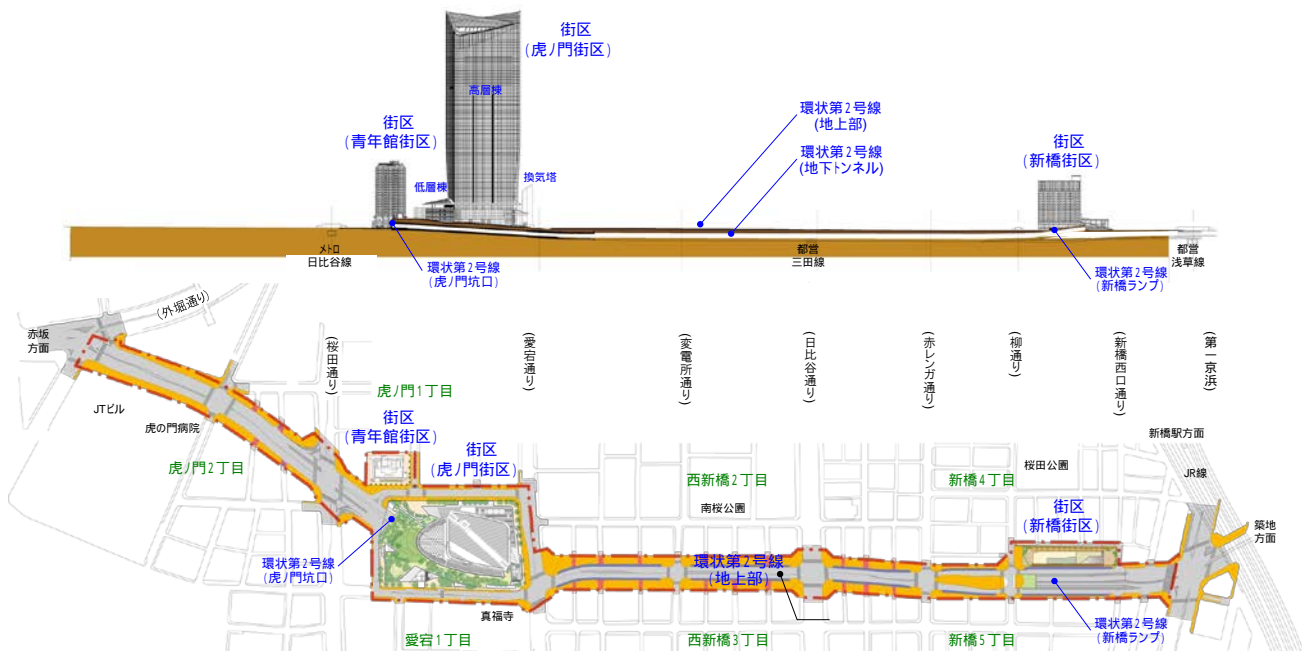
環状第2号線（新橋～虎の門：平成26年3月供用）

環状第2号線のうち、第一京浜（港区新橋四丁目）から外堀通り（港区虎ノ門二丁目）までの約1.4kmの区間が開通しました。これにより、都心部の道路ネットワークが強化され、周辺交通の円滑化が図られるとともに、沿道まちづくりを誘導するなど、周辺地域の活性化が期待されます。

なお、地上部道路は、街路樹や自転車道等の整備が進み、緑豊かで魅力的な道路となっていく予定です。

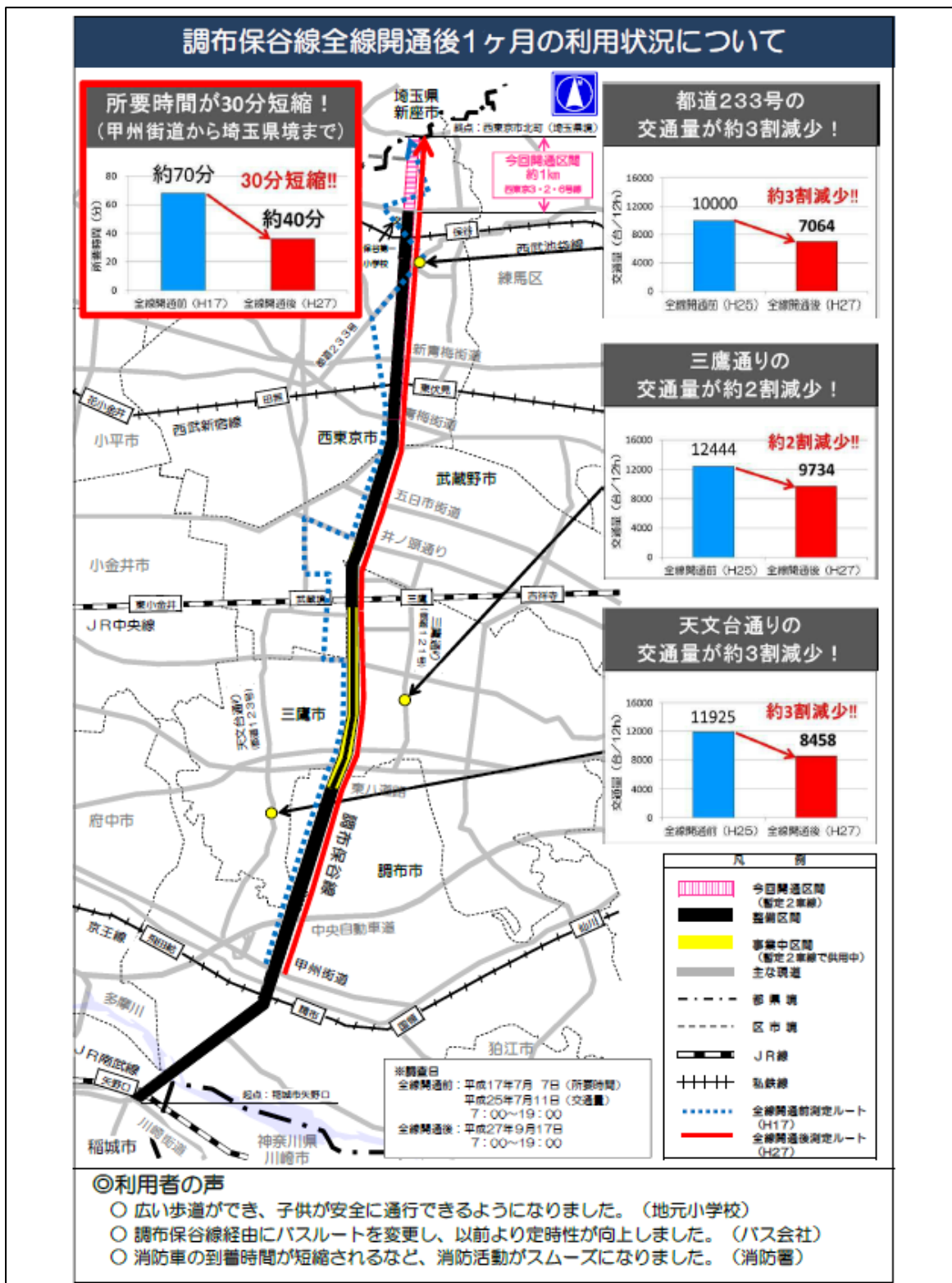


（日比谷通り側から見た地上部道路及び沿道建物の将来イメージ）



調布保谷線（西東京市下保谷1丁目～北町〔都県境〕：平成27年8月供用）

多摩南北主要5路線の1つである調布保谷線のうち、西東京3・2・6号線の保谷第一小学校付近から埼玉県境までの約1kmが開通（暫定2車線）したことで、調布保谷線が稲城市矢野口から埼玉県境まで全線で開通しました。これにより、多摩地域における南北方向のアクセス性の向上や、周辺道路の混雑緩和などの整備効果が得られています。



「調布保谷線【稲城市矢野口～埼玉県境(西東京市北町)]全線開通後1ヶ月の利用状況について」ホームページより抜粋
 整備状況-4

新滝山街道線（八王子市丹木町三丁目～戸吹町：平成25年3月供用）

圏央道アクセス道路として整備を進めてきた新滝山街道（全長約7.0km）は、平成25年3月に高尾街道から谷野街道までの区間（約2.6km）が開通したことで、全線開通となりました。これにより、高速道路ICへのアクセス時間短縮や、周辺道路の交通渋滞の緩和などの整備効果が得られています。



「新滝山街道全線開通による整備効果」ホームページより抜粋